

関西現代俳句協会 会報

No. 37

2008. 10. 20

二〇〇八年度「総会」特別講演

「若き出会い」

講演・豊田 都 峰

(関西現代俳句協会々々長)



今日は話を聞きにきていただきありがとうございます。

テーマは「若き出会い」です。どこまで若いかということ

ですが、今日の俳句という形の、その原点的なものが話せたら幸いですと思っております。

おかげさまで、『京鹿子』が昨年十二月号で通巻千号

を迎えることができました。そのために早くから纏め始めていたのですが、その『京鹿子一〇〇〇号記念誌』もお配りさせて頂きました。

千号に達するまでには主宰は三代かわりました。鈴鹿野風呂・丸山海道、そして最後の百号分を私が担当いたしました。『雲母』で飯田龍太がお止めになったのが、九百号でした。もし誰かがお継ぎになっていればとぞんじます。だいたい千号に達するには三人ぐらいが受け継がなければいけません。

話も戻しまして、受け継いの中で思ったり、『記念誌』を纏めてゆく中で思ったようなことを、今日お話ししようと思っております。レジメを用意いたしました。記録的なことです。曖昧なことでは困りますので、簡単なものが用意いたしました。

思い出しますと、昭和二十三年のことですが、大学の廊下で肩を叩かれました。叩いたのは、松井利彦でした。『天狼』の最後の編集長でしたが、誓子が亡くなった後は、岐阜で『天弓』を創刊されていましたが、すでに亡くなってしまいました。

まだ大学の文学部の一回生でしたが、「豊田、お前、卒

論は何をするのか。いい俳句の先生を知っているから、紹介してやる。」というわけで、鈴鹿野風呂を紹介してもらいました。まさしく「若き出会い」、ために今日ここに私が入っています。

野風呂についてのことですが、伊丹啓子さんが「日野草城伝」を出されました。平成九年のことですが、十二年に改訂版を出されました。野風呂の生年月日が明治二十四年になつていたからです。実際は明治二十年生まれです。調べてみると、辞典類も杜撰なものがあり、啓子さんもそんな間違つた資料を採用されたからでしょう。肝心の草城との出会いの時の年齢にずれがあることに気づかれたからであります。

野風呂と草城との出会い。大正九年のことであり、野風呂三十三歳と草城十九歳とのまさしく「若き出会い」。

では、なぜこの出会いがあり得たのか。そのあたりから話してまいります。

鈴鹿野風呂の家は京都の吉田神社の社家で分家です。現在でも吉田山麓に鈴鹿家は三十数軒ありますが、高浜虚子が三高に入学して下宿したのが、野風呂の隣の家であつたのです。

調べてみますと、明治二十五年九月九日に上長者町新町

に下宿しますが、十六日には聖護院の方に宿替えしています。そこには正岡子規もたずねております。その子規宛の書簡によりますと、十二月には吉田町十七番戸水谷光典方に下宿している、とありますが、これが野風呂の隣に当たり、のち野風呂の所有するところとなります。虚子十八歳、野風呂五歳の近づきであり、この縁で、野風呂は虚子に俳句を学ぶことになります。

虚子は学制変革で三高を退学、仙台二高も三カ月で退学、東京にでて子規との関係で、松山で生まれた「ホトトギス」が東京で継承されるが、その「ホトトギス」を仲立ちとして、いろいろな出会いを招くわけです。

野風呂は京大を卒業後、中学教諭を歴任、大正七年には鹿兒島の川内中学に赴任、九年春には京都武道専門学校教授としてもどり、京大の副手でもあつた。

草城は大正七年九月に三高に入学。ところが七年八月号「ホトトギス」に次の句が初入選しています。

駅の桜灯火を得て汽車に近し 京城 草城

さすがと思わせる句だが、これまでに一年かかった由。

十月に虚子が入洛、田中王城を紹介されています。京都のホトトギス派として活躍していた人です。

大正八年七月に草城は「神陵俳句会」を作ります。吉田

神社を祭る吉田山からの命名です。この頃、岩田紫雲郎に知り合いますし、九月には山口誓子が三高に入學してきます。出会いの可能性の密度が高まっています。

一方野風呂ですが、大正九年一月号「ホトトギス」に次の句が初入選します。

散紅葉かさりこそりと枝を伝ふ

草城は、二月に入浴した虚子に京大生だった五十嵐播水を紹介されたりし、神陵俳句会を發展させ、三月「京大三高俳句会」に改組します。

野風呂・草城・誓子・播水、さらに水原秋桜子が互いに会おうわけですが、その基本的な出会いを、野風呂は、草城第一句集『花水』の序に次のように書いています。

大正九年九月も末の日曜日の午後、すらりと丈高い、眉目清秀の三高生が、袴をきちんとつけて訪問した。見るからに草城君だと思つたら、果たしてさうであつた。同年の春薩摩の勤務先から帰浴した私は、その頃すでにホトトギスで、鋭い鋒鏑をあらわしてゐた君に、遇ひたいと思ひながら、まだ果たさなかつたのであつた。二人は机をはさんで、早十年の知己の如く、俳話や、歌に興味のある二人は歌話にまですんだことをおぼえて居る。

後、来合せていた三高生と、三人洛北を歩き、八瀬の平八茶屋で酒を酌み交わしたが、以後草城は野風呂の神麓居に足繁く通い、十一月に『京鹿子』の発刊となります。

山口誓子ですが、草城と一年遅れで三高に入りまして、『京大三高俳句会』の張り紙により、出席、

葡萄含んで物言ふや唇の紅濡れて 草城

の句に魅せられて俳句の道に入ることを決意するわけです。虚子も草城の感覚的把握の仕方に新味を認めていたのですが、誓子も俳句でこのようなことが言えるのかと感じ入つた次第です。

誓子の本名は新比古です。誓子は当て字で始めはチカヒコを読んでいたので、入浴した時、虚子がセイシと読んで以来、セイシにしたようです。

大正九年十一月に『京鹿子』が発刊されますが、創刊同人は岩田紫雲郎・田中王城・鈴鹿野風呂・高浜赤柿・中西其中・日野草城の六名。虚子らの作品を載せ八頁立。消息欄に「発表機関すなわち王国を得た」と書き、発行所は三高内・日野草城となっている。そして、京大三高俳句会第七回句会報が載っているのですが、その中に

鶏頭の軽き震へを見逃さず 新比古

を見ることが出来ます。因に「ホトトギス」初入選は大正

十年

暑さにだれし指悉く折り鳴らす

これまた、さすがだと思えます。五十嵐播水は大正九年十一月から、誓子は大正十年八月の『京鹿子十号』から同人に名を連ねます。

次に水原秋桜子ですが、大正七年東大卒業。大正十一年には草城と出会い、またその年に誓子が東大に入学する。そんなことでその年の四月、「東大俳句会」が出来、秋桜子・誓子・風生らが集まります。

これらのメンバーの「ホトトギス」での活躍ですが、巻頭を調べてみました。大正十年四月京都草城・十一年一月八月京都野風呂・十三年七月京都田中王城・十月在鞍馬山口誓子・十二月大正十四年六月七月九月東京水原秋桜子。

秋桜子ですが、東京より京都の方が魅力があつたようで、大正十一年には入洛して、歓迎句会を開いてもらつております。その時のこととして、村山古郷の「大正俳壇史」につきのようなことが書いてあります。

締め切り間際になつて鈴鹿野風呂がやつて来た。野風呂は隣の人に席題を聞くと、「さよか」といつて、忽ち所定数の句を作つて出句した。そして互選の結果は、最高点であつた。達吟というのは、こういう人のこと

であろうかと、秋桜子は舌を巻いた。京都の俳人の話によると、野風呂の「速射砲」は有名であつた。

誓子の「私の京都時代」には、

野風呂さんの多作で、句作の早いことには感嘆した。とあり、「速射砲」のあだ名にふれていますし、草城は「機関銃」に譬えています。

秋桜子は『京鹿子』でも十二年から十四年にかけて、多く巻頭をとる活躍をし、大正十五年には京鹿子叢書として句集「南風」を出版しています。因に句集「葛飾」は第一句芸上の真」を掲げ、「ホトトギス」を去っています。この新興俳句の流れに誓子も加わつてゆきます。

虚子が隣に下宿したことから、野風呂と「ホトトギス」の出会い、そこへ吉田という地理的な要素、野風呂が居住し、草城・誓子・播水が学び、京大三高俳句会、さらには「京鹿子」という場が形成されたのですが、中心的に運営してきた人々の卒業、転住などにより、「京大三高俳句会」は解散、やがて「京鹿子」は野風呂の主宰するところとなつて行きます。

こんなところが「若き出会い」ということでございます。ご清聴ありがとうございました。

今年もよろしく

関西現代俳句協会

会長 豊田都峰



お慶び申し上げます。

会長に就任、足掛け三年になりますが大過なく今日がありますこと、皆様方の一方ならぬお力添えと厚くお礼申し上げます。

昨年の挨拶で、今年度の課題として特に会員の増加を取り上げさせていたできました。

関西の会員数ですが、資料によりますと

平成一五年度 一三三六名
一九年度 一〇八一名

因みに全国的規模の同期間の減員数と比較してみると、五分の一度程度ですが、運営してゆくからには、それにふさわしい会員数が必要でございます。

これらのことは皆様方は十分認識さ

今年の夏はた

いへんきびしい

ことでしたが、
会員の皆様方には
すこやかに
過ごしのことと

れている結果でしょう。

最近の資料によりますと、この関西で百人を超える新会員入会があったようです。皆様方のこの上ないご努力と感謝しております。

次は当然、その入会された方をはじめ多くの会員方に満足頂ける活動についてですが、奈良吟行・総会が多数のご参加のもとで行われ、その一環として、私も講演をさせてもらいました。暮れには、句集祭や忘年会を予定しております。

持ち回り吟行ですが、今年は奈良で行いましたが、来年の予定は大阪ですが、これで一回りしましたので、もう一回りするか、新企画でゆくか、答えを出す必要がございます。

会員数との関係もありまして、集まりを統合する必要が出てくることも考えられます。皆様方のお知恵やお力をお借りして考えてまいりたいと存じます。

協会があり、それに属していてよかつ

企画部短信

1. 08年忘年会&句集祭

08年12月7日(日)開催

さわがれた北京オリンピックもあつけなく終り、今年も過ぎ去ろうとしています。恒例の「忘年会&句集祭」は、12月7日(日)、会場は昨年と同様、中之島の「大阪国際会議場」です。多数のご参加をお待ちしています。

2008年に、句集等を上梓された方は、至急に事務局宛ご連絡ください。

2. 09年度「春の吟行大会」企画

09年4月予定

過去5回の吟行大会(南琵琶湖クルーズ、和歌山城、京都・八坂神社界限、神戸・王子動物園界限、奈良公園一帯)の経験を生かしながら第6回目の大会を計画。

来年の吟行地は四月二十五日(土)大阪です。ご期待ください。皆さまのご意見をお待ちいたします。

(増田耿子)

関西現代俳句協会事業報告

平成19年7月～20年6月

◆〇七年度忘年会&句集祭

本年度の句集祭は十二月に入つて間なしの十二月二日(日)、恒例の大阪国際会議場において開催した。この会も関西のビッグ・イベントとして、協会内部でも広く認知され、関西の会員にはその開催が待望されているが、何しろいままで三十二年間も途絶えることなく続けてきたその実績の重さに、現在の私共は先輩方のご苦勞を思い、深く感謝している。催しの趣旨等は皆さん方も既にご承知のことと思うが、掻い摘んで申し上げると、この一年間に会員が句集・評論集・エッセイなど既に発表された作品集を持ち寄つて展示し、出席された著者に席上ご挨拶を頂くなどで、ユニークな運営が続けているというものである。

今回は二十八点の幅広いジャンルの作品が集まり、パソコンによる作品の表示、墨書による句の展示と作品その

会長 豊田都峰

ものの展示との三つの方法により供覧した。席上の各作者による苦心談や抱負などは約八十名の出席者に多大の感銘を与え、来年こそはの意気込みも垣間見え、作者魂を刺激される好い機会になったようだ。

◆春の奈良吟行大会

関西は二府四県という広大な地域を抱え、運営にはそれなりの苦勞も発生



奈良吟行大会における豊田会長の挨拶

するが、翻つて考えるとそれぞれに県域に閉じこもつてはならない活動が協会には課せられている。この認識の下、当会では日頃の活動は京阪神に纏まりがちのため、縁の遠い日本海側とか太平洋側という遠隔な土地を訪ね、その地の会員たちとの交流のため四年前から年に一度ではあるが、「各府県持ち回り吟行大会」を開催して、地方との交流を深めてきた。

その甲斐あつてか、滋賀、和歌山、京都、兵庫と年を追いつつ参加者の数はうなぎのぼりに増え、昨年の兵庫大会では二百三十五人という多数の参加者を数えるに至つた。しかし、奈良は立地条件等最高の場所ではあるが、何分会員数の少ない県であるだけに、京阪神からの参加者が期待された。

当日、四月六日は桜も丁度見頃の最高の天気恵まれ、約百二十五名の参加者から二百五十句という作品が投句され、その内より八名の選者にそれぞれ特選二句、入選八句、計十句を選んでいたのだのである。

特選、入選者には豊田会長から賞が贈られ、夕刻散会した。選者には和田悟朗顧問、花谷和子顧問の他豊田都峰会長、吉本伊智朗、谷下一玄、赤尾恵

以副会長、小泉八重子、三宅睦子の八人の先生方に御願ひした。

◆総会

今年の「総会」は六月十五日(日)、いままで長らく使用してきた大阪国際会議場を離れ、大阪駅に程近いラマダホテル大阪で開催した。ここは地下鉄御堂筋線の中津駅のすぐ上であり、傘なしでも大丈夫という利便さもある。何よりもコンパクトで料理も美味しいなど、一般に評判のよいホテルである。当日の参加者は八十五名と、何時もの総会とほぼ同数である。会の進行は理



豊田会長の総会挨拶

事会の後総会に入り、過去一年間における物故会員に黙祷を捧げた後吉本副会長に議長を御願ひし、十九年度の活動報告、会計報告。さらに今年の活動計画、予算の審議と続き副会長の交代等人事案件が豊田会長より発表された。主なところは、5人の副会長のうち、定年を迎えられる谷下副会長と長らく病床にあられる藤井副会長を、室生幸太郎、小泉八重子のお二人と交代していただくこと、これに伴い理事、監査役、顧問等の新任・交代が発表された。

その他会則の一部改正等も審議した。本日事務局として強調したことは次の二点である。即ち、①会員の減少に伴う新会員の補充が何よりの急務であり、一人の会員が一人の会員を獲得する「一会員一新会員獲得運動」の推進。②会員の減少に伴う協会経費の削減の二点であったが、①については総会終了後の現在、有力結社からの協力を頂き、徐々に回復しつつあることは誠に喜ばしい。また②については今後の協会運営上、抜本的なかなり思い切った手を打たなければいけないとも思えるので、検討を重ねたい。

総会後、講演会に移り、豊田会長により『若き出会い』と題するお話をうか



華やかに懇親会の女性会員たち

がった。内容は、京鹿子誌一〇〇〇号を昨年末迎えられた現在、創始者である鈴鹿野風呂先生と高浜虚子先生、日野草城先生や水原秋桜子先生との学生時分からの交流と俳句の現在など誠に多彩な日本の俳壇の歴史をユーモラスに語られ、聴衆に多大の感銘を与えられた。なお、この講演内容はこの会報の巻頭で全文掲載している。

講演会終了後、引き続き懇親会に移ったが、ここでも豊田会長の挨拶、吉本副会長の乾杯の発声を皮切りに、

和やかな懇談の場に移り、美味しい料理と豊富な飲み物、個人や結社別の挨拶等、事務局の中井部長の巧妙な話術に引き込まれて、楽しい歓談を重ね、定刻の七時、漸く散会した。

◆その他の関西での活動

これらの関西における三つの行事は、いわば三本の柱としていままで協会の象徴とし、また支えてきた原動力ではあったが、現在の情勢は誠に厳しく、先の総会でも論議されてきたところであるが、今後ともさらによりよい方向をめざして検討を進めたい。勿論、協会にはこれ以外にも地道な行動があり運営を進めてきた。その一つが日々の情報を伝えるホームページの育成であり、また協会の今後を担う人材の育成を目的とする青年部の活動である。

①ホームページ

ホームページの運営については、既にルーチンワーク化しており、実施主体であるICT部で積極的に進められ、パソコンをお持ちの会員にはご利用いただいていると思う。内容としては会員執筆の巻頭エッセイを始め、協会の紹介と催しの告知、報告、会員著作の紹介(事務局に送られた物に限る)、結

社紹介など幅広いが、活性化のためにご意見があればお送りいただきたい。

②青年部の運営

青年部は協会の更なる組織化のため、この総会で協会事務局の一部として、会長の指導下に属することが正式に認められた。しかし問題点としては先ず会員の資格である年齢をどこで区切るかが明確でないと言うことである。四十台なのか五十台なのか、はたまた六十台は無理としてもどこでギリギリの線を引くか。若手の入会が少ない現状としては、青年部という名称に囚われるあまり活動を歪めていないか。いつそのこと名称を別なものに変えることで会員の幅を広げ、新しい組織を組み立てる必要があるのではないか等論議を進める必要がある。これは誠に急を要する問題であることをお互いに認識したい。

しかし、関西現代俳句協会における青年部としては、今年度中には一月と五月には勉強会を、さらに十一月には宇多喜代子協会会長をゲストとしての大宇陀・東吉野一泊の吟行会を開催するなど、頑張っている。青年部の発展のためには矢張り今後の会員の獲得が鍵であろう。

(報告 尾崎 青磁)

謹 悼

平成十九年六月一日より本年七月末までの期間中に、現代俳句協会において受け付けたご逝去会員のお名前をお知らせし、謹んで哀悼申し上げます。

梅田	芳克	大津市 龍興	(平成十九年十月)
高橋	千美	津守市 京慶子・展	(平成十九年九月)
橋本	都代子	大津市 街・白燕	(平成十九年十一月)
上田	かつみ	京都市 京慶子	(平成十九年四月)
宇野	隆雄	京都市 寒雷	(平成十九年二月)
高尾	敏夫	京都市 京慶子	(平成二十年三月)
西藤	昭	京都市 警曹花野性	(平成二十年二月)
高野	途上	芦屋市 鷹	(平成十九年一月)
山本	素徳	宝塚市 青士	(平成十九年八月)
西村	信男	奈良市 南風	(平成十七年十二月)
曾和	絲名	楠本市 風樹運河	(平成十九年十一月)
鳥田	一葉子	京都市 青士・暁	(平成二十年六月)
下村	豊子	吹田市 青士・暁	(平成二十年四月)
田中	公子	芦屋市 白燕	(平成二十年五月)
山本	美枝	八尾市	(平成二十年七月)
本原	翠々	大阪市	(平成二十年七月)

注：協会受付順 (○)内は退会年月。
順不同・敬称略

なお、本期間中に逝去された村木佐紀夫、森田透石先生につきましては昨年の金報においてご逝去お知らせ済みです。再度掲載を控えさせていただきます。

平成二十年十月

関西現代俳句協会

眩しいほどの桜を愛でて 『奈良吟行大会』開催!

二〇〇八年度、関西現代俳句協会「春の吟行大会」は、花もたけなわの四月六日奈良県文化会館において開催された。

降りそそぐ陽光に奈良公園一帯の桜は、すでに七分咲き。古い歴史に刻まれた奈良に相応しい、まさに春爛漫の一日であった。

今大会の会場周辺は、興福寺や東大寺、国立博物館等々が控えていたため、佛像を配した桜の作品が多く、感性豊かな秀句が出揃った。

天候に恵まれ、立地条件がよく、百二十五名という多数の参加者を得て、盛大に大会を終えることができた。



講評風景(講評は小泉八重子先生)と参加者

日時 二〇〇八年四月六日(日)
会場 奈良市内自由吟行会
奈良市登大路町「奈良県文化会館」

選者

和田悟朗、花谷和子、
豊田都峰、吉本伊智朗、
谷下一玄、赤尾恵以、
小泉八重子、三宅睦子
の諸先生

参加者数 一二五名

賞品

選者特選賞
図書カード
佳作賞
図書カード

図書カード

六ヶ月前からの会場確保から当日の準備まで、

ご協力いただいた関西現代俳句協会の各結社主宰ならびに会員諸氏をはじめ、参加者動員に絶大なご尽力を賜った京都、大阪、兵庫、奈良の各結社の方々に對して、ここに厚く御礼を申し上げます。

素晴らしい吟行日和となった今大会。反省材料は来年への糧として稔らせたいと考えている。

来年度の吟行大会は大阪府の順番である。持ち回り吟行大会の最後の地ですから、有終の美を飾りたく、懸命に努力したい所存です。時期は今年と同じく四月、交通至便の会場ラマダホテル大阪で実施します。お手伝いいたしたく方々には、大変ご苦勞をお掛けいたしますが、どうかよろしくご協力ください。

(増田 耿子)



会場風景

◇和田 悟朗 先生 選

特 選 さくらに見て細き腕の阿修羅像
一切の音を鎮めてさくら満つ

大頭 美代子
森 たい子

入 選

ひとひらの花の行方や越天楽
花の大路往く身も高貴の高齡者
舍利瀦子の見えぬ剥落さくら時
平城山の四神の桜ほっこりと
清明の風聴いをり神の鹿
花かすむ遠目に母校の避雷針
初蝶の行方知らずや慮遮那仏
馬酔木咲く二月堂まで女坂

浜田 栄子
中山 婦美子
辻本 孝子
吉村 紀代子
竹内 久子
大島 時子
片山 嘉子
福井 功子

◇花谷 和子 先生 選

特 選 摘草のしだいにひとり遊びかな
花人となり緋毛氈譲り合ふ

井上 菜摘子
赤尾 恵以

◇豊田 都峰 先生 選

特 選 俳人は歩き画人は座る春
すり寄って鼻ぬれてみし春の鹿
仏飯を加えし茶粥花あかり
古書店の多き奈良町花の風
桜蕊降るやすなわち水輪の芯
天に鳥地に人枝垂れ桜かな
地下を来て登大路の花の下
五重塔くるりとかわし初燕

内山 思考
薬丸 けい子
菱川 弘子
近藤 詩寿代
玉記 久美子
木下 泰子
岡崎 淳子
遠藤 公子

柏原 才子
鈴木 茂実

入 選

一片の木簡もまたおぼろなる
摘草のしだいにひとり遊びかな
仏頭に大きな耳あり春の雲
膝やはらかく天平の春に佇つ
裂けむかの燈鬼の四肢や春ともし
清明の風聴いてをり神の鹿
天鷲絨の直哉の椅子や春の逝く
一樹下に身を養ひて孕鹿

鷲山 珀眉
井上 菜摘子
大西 陽子
井上 菜摘子
神崎 ひでこ
竹内 久子
竹内 久子
津野 洋子

◇吉本伊智朗 先生 選

特 選 惜春や草にかがめば乳臭く
遺書古くなつてしまひしさくらかな

玉記 久美子
谷下 一玄

◇谷下一玄 先生 選

特 選 糸桜白光の揺れありにけり
天に鳥地に人枝垂れ桜かな

入 選 春塵にまみれ仁王の眼の光
花冷えの千手観音鬘持つ
摘草のしだいにひとり遊びかな

増田 耿子
菱川 弘子
井浪 立葉子
河井 末美子
小砂 曙子
大島 時子
津野 洋子
谷下 一玄

西上 邦子
木下 泰子
伊藤 詔雅
土屋 菜摘子
井上 菜摘子

花ぐもり鹿の正視を躲しゆく
 笙の音のもれくるしだれ桜かな
 大仏殿鴟尾より落ちる蝶の影
 まほろばの大和の春にまぎれこむ
 花曇り日光月光菩薩留守

特選 ◇赤尾 恵以 先生選

清明の風聴いてをり神の鹿
 つちふるも天平びとの歩幅にて

恋歌の詠みひとしらず百千鳥
 まほろばの逸史への亀の鳴くことよ
 ジーパンの花人となり大路ゆく
 花の昼飛火飛火野良の掌に広し
 猿沢の池に亀浮く四月馬鹿
 耳聴く走り出しけり春の鹿
 まほろばの三千界の花明り
 一切の音を鎮めてさくら満つ

特選 ◇小泉八重子 先生選

まほろばの逸史へ亀の鳴くことよ
 人避けて孕鹿なる四肢の張り

興福寺へ人座すように孕み鹿
 近く見て遠くを見たり花の古都
 明日香びとうしろの正面鬼と花
 いにしえの心音を聴く桜かな
 春風に掴まつているくくり猿
 どこからも鹿にみられてさくら見る
 春鹿や花を離れた闇に居り
 生えかかはる毛波のすさび孕鹿

河井末子
 脇本妙子
 井上美知子
 大津茂子
 和田悟朗

竹内久子
 本郷公子

高田節子
 柏原才子

井上美知子
 黒田卓示

溝端文二
 美藤富美子
 松本鷹根
 森たけ子

柏原才子

紙谷香須子
 吉田成子

坂本タミエ
 西川吉弘

河井タミエ
 和末子
 谷下玄

特選 ◇三宅 睦子 先生選

大仏さま花にうかれて立ちたまへ
 いにしえの心音を聴く桜かな

五重の塔のせ人力車走る桜道
 花冷や茶粥の匂ふ奈良格子
 大木眼の潤んでをりぬ春の鹿
 花の下鹿は前足たたみけり
 花冷や強くできたるぬいぐるみ
 半眼の如来に見られ花の昼
 清明の風聴いてをり神の鹿
 逢ひたくて待つも少しの花の下

奈良吟行大会での選者の先生方



(左から)

三宅 睦子
 小泉八重子
 花谷 和子
 赤尾 恵以
 和田 悟朗
 豊田 都峰
 吉本伊智朗
 谷下 一玄



吟行大会々場にて

西川富美子
 村田吉弘
 三宅和光
 山田由紀子
 西岡伸実
 林本宜子
 辻旗百枝
 降内幸子
 竹崎奈美
 川崎美

新会員の一句

今年、現代俳句協会にご入会いただいた方々から、一句づついただきましたので、ご披露いたします。(到着分のみ)

王義之も孔子も迎ふ秋五輪
口にせぬ思ひのたけや流れ星
銀漢やくろく尖れるピラミット
本殿は遠流地へ向き夏の月
初日優し師弟愛の碑知恩院に
八頭子引きつれて掘られけり
玉虫の瑠璃色の風離宮あと
七十歳の端に沁みる夏芝居
無限という悲しさの万緑の中
琉球を地より剥がさん大台風
少年は手話春昼のムンク展
火口湖を一瞬見せし夏の霧
比叡樹林堂塔もはや霧に浮く
月涼しテラスに揺らぐ木の葉影
茫々の夏過ぎてゆく吊り洋燈
西行水掬ひし掌より涼新た
冬の月またひとり去る過疎の村

京鹿子 浅井 照子
季流 有本 雄美
京鹿子 池村 禎子
京鹿子 五十川智恵子
暁 井原田連星
四季 大附多美子
京鹿子 大西 逸子
渦 織田 静代
港 金澤 遊名
青群 兼田 京子
京鹿子 木村 安子
京鹿子 北村 道子
一粒 日下 聰一
草樹 熊澤やすを
京鹿子 倉橋あつ子
藍 坂倉 晴江

茅舎忌の髪切虫に鳴かれけり
パナマ帽深く冠りて貝になる
啼くための青い樹がほし羽化の蟬
田起しの光る鍬先春夕焼
父母よりも長く生ぎのび傘壽の喜
それぞれの写真見せ合ふ盆の月
むらがれど一人はひとり曼珠沙華
西瓜切る昔八人大家族
秋燈オフェリアの死と須磨子の死
屋島寺やつるべ落しの茜瀬戸
朝顔の蔓の先なる時空間
高齡の話ここまで焼きなすび
祭神は遠流の帝夕かなかな
未来へのカプセルを埋め燕の子
がりがりと音の聞こゆる氷旗
夏来るメタセコイアの全身に
居つき猫追ひ払はれて地藏盆
麦の秋どこかで父が「おい」と呼ぶ
千本の落花の下に契りたや
天の川昭和に消えし涼み台
骨切りの音さりさと鱧を売る
草木のまだ水ほしき秋の虹
かたつむり頭かかへる手を持たず

暁 笹井 武志
野々会 佐々木千香
暁 佐藤 玲子
藍 清水 静
渦 末岡 和子
渦 末久みどり
京鹿子 杉浦 満子
きりん 杉村 正子
京鹿子 鈴鹿けい子
玄鳥 鈴木 茂実
京鹿子 鈴木 明芳
きりん 高橋 孝三
京鹿子 竹内 久子
京鹿子 竹下 道子
京鹿子 田中卯佳美
香天 谷川すみれ
京鹿子 津野 洋子
暁 土屋 詔子
藍生 七波 真理
藍 中川 富美
藍 中北 幸子
槐 中田 禎子
寒雷 仲田 陽子

夏雲やモデルルームのドア開く 川筋をはなれぬこゑや石たたき 梅雨晴や昭和の豪邸潰されて 戦争が七夕笹に見えかくれ 電工の伸びゆく梯子花みずき カギ針で編んであるかに藤の房 ひとすじに生きるのよろし蝸牛 利き耳は左と覚ゆ夜の秋 さよならの手のやはらかき梅雨夜 枯芭蕉風荒き日の荒き音 メタボなる身を持って余す聖五月 耳聡く走り出しけり春の鹿 逃げ水を追う選曲はビバルディー 一山のこだけ日照雨大黄葉 夏大根磨つて辛みを味わえり 炎天や老いに苛酷なまつりごと 日月の欠片掬ひて渦見かな 原爆忌ペットボトルの水をかう 回峰の谿底見えず風すずき 青年のような一匹猨	藍 京鹿子 藍 藍 京鹿子 龍鼻 京鹿子 京鹿子 花筐 花筐 京鹿子 暁 暁 花筐 花筐 京鹿子 暁 暁 花筐 花筐 京鹿子 暁 暁 花筐 花筐 京鹿子 草樹 藍 京鹿子 玄鳥	長谷川高子 浜田 栄子 疋田 愛子 廣田 善保 福留 むつ 藤川 弘子 古川 たけ 堀 豊 本郷 公子 松岡 房子 三崎 睦月 美藤富美子 三宅 和代 六辻 丈夫 村上 素心 葉丸 正勝 柳川 晋 矢野 夏子 山田 和 山田由紀子 山田由紀子 由比 清子 吉田 星子 若林 千尋
---	---	--

ゆつたりと風力発電山笑う
夏鶯豊に大の字になつて
季流 渡邊 盛雄
暁 渡辺 善子

青年部この一年

青年部部长 上 森 敦 代

いつも青年部活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。
ご理解、ご協力いただきありがとうございます。

勉強会も回を重ね、昨年の五月の第三回勉強会で「林田紀音夫」を取り上げた後も、今年一月の第四回勉強会・「永田耕衣について」では、金子晋氏をゲストにお招きし、お話を伺いながら永田耕衣の句やその生涯について学習しました。

また、昨年の十一月には、中部地区の前青年部部长・大西健司さんのご協力をいただき、大宇陀、東吉野吟行会を行いました。二日間にわたり、大宇陀大願寺・吉野葛本舗森野薬草園、菟田野・宇汰水分神社中社、東吉野村・鷺家八幡神社桂信子句碑・薬師堂・東吉野村大又 三橋敏男句碑・鈴木六林男句碑・丹生川上神社・中社原石鼎旧居などを訪ねました。ゲストとして来ていただいた、宇多喜代子氏にそれぞれの句碑や句についていろいろ伺いながら、自然や歴史、地霊や言葉のパワーを全身で感じる旅になりました。新しい仲間も増え、以後の活動が活発になることと思います。今後の活動は未定ですが、関西ゆかりの俳人を取り上げ、よりよい勉強会のために試行錯誤を重ねていきたいと考えています。関西地区のホームページなどお知らせしていきますので、ご参加、ご支援をお願いします。ご意見ご希望等お寄せいただければ幸いです。

事務局便り

おかげ様で新会員が一〇二人プラス!

協会の運営は会員の数に大いに影響されるということは、いまさら申し上げるまでもないことですが、今年の総会にて豊田会長から、出席の会員の皆様方にお願ひされたことも、実にその一点にありました。この会長の不退転の決意が並み居る主宰、代表、会員すべての皆様の心に響いた結果でしょうか、今年に入つてこの九月半ば迄で、なんと一〇二人の増加となつて、開花しました。これは二年前の会員数に匹敵します。ありがとうございました。

しかし、残念なことに会員の老齢化に伴う退会・死亡などは相変わらず続いておりますので、まさにイタチごつこの毎日であります。つまり百人を超える新入会者があつても、いつ元の数に戻るかという心配は絶えません。今年もあと二ヶ月あまりの日を残しておりますので、この多数のご入会を心よりお礼申し上げますと同時に、会員の皆様の一層のご尽力をお願ひ申し上げます。

□経理部からのお願い

経理部長 村田富美子

今年も十一月を目前にし、恒例の「忘年・句集祭」も近づいてまいりました。この一年と言うにはまだ若干早いのですが、協会の経理をお預かりする立場として、いろいろ考えさせられる面もありました。この会報内でもご覧になれますように、今年には会員の大幅な減少と言う事態を踏まえて、今までにない緊縮財政を取らざるを得ませんでした。諸経費は勿論、役員に支払う手当も減らし、郵送費、事務関係諸費、更に総会で講演して頂きながら、宇多協会会長、豊田会長には寄付を頂く等、あちこちの方々のご協力をいただくことによつて、辛うじて若干の繰越金が出る予算を組むことが出来ました。

その原因は何よりも老齢化、ご逝去等による会員の減少であります。具体的に申し上げますと、関西地区のみでも十五年末在席の一三三六人が、四年後の十九年末には一〇八一人と、二五五人減少しております。協会は営利団体で

はありませんので、予算は本部より交付される助成金によつています。だから会員数の減少は即予算に響き活動を抑えなければ成り立たないのです。しかしそれではあまりにも情けないので、協会としては為し得る唯一の方法として、いま会員数を増加に転ずること、つまり会員数増加の巻き返し運動を行なつていきます。

各結社の主宰、代表その他会員各位のご尽力のお蔭で、その効果は徐々に現れ、九月に入つて百二名の新規入会者を数えるに至りました。これは丁度十八年度の会員数に匹敵します。

しかしまだまだ募集と緊縮予算は続けなければなりません。なぜなら増加した新会員に対し、退会の会員もまた続くという状況は、恐らくこれから先も続くからです。協会としても新規会員募集はずっと続けますので、どうか会員の皆さんも、関西の俳句愛好者やお友達などを「一人が一会員を」の気持ちでご推薦頂き、皆様の関西現代俳句協会が一層盛り上がるよう、ご協力くださることをお願ひいたします。

平成19年度 会計報告

2008年6月15日

(自・平成19年4月1日～至・平成20年3月31日)

関西現代俳句協会 (単位: 円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前期繰越金	2,113,444	総会費	729,233
本部交付金	2,095,000	会議費	115,745
総会費	434,000	吟行会費	538,173
吟行会費	432,000	句集祭費	981,004
句集祭参加費	399,000	青年部助成費	196,913
寄付金(宇多会長)	70,000	印刷費	192,591
		事務費	106,876
		通信費	508,135
		交通費	289,171
		役員手当	576,120
		雑費	71,167
合計	5,543,444	合計	4,305,128

収入 5,543,444円 - 支出 4,305,128円 = 1,238,316円
 残金 1,238,316円は次年度へ繰り越します。

会計 村田 富美子 印

平成20年6月15日

上記、監査の結果すべて正確且つ適正であったことを認めます。

会計監査 小泉 八重子 印 若森 京子 印

平成20年度 予算

2008年6月15日

(自・平成20年4月1日～至・平成21年3月31日)

関西現代俳句協会 (単位: 円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	1,238,316	総会費(会場費・懇親会費・その他)	700,000
本部交付金(本年度会員数 1,000人)	2,000,000	会議費(諸会議費)	100,000
総会費(懇親会費 7,000円×70人)	490,000	吟行会費(会場費・賞品費・諸雑費)	400,000
吟行会参加費(奈良・吟行大会投句料)	260,000	句集祭費(会場費・懇親会費・その他)	750,000
句集祭参加費(懇親会費)	490,000	青年部助成金	200,000
青年部参加費	40,000	印刷費(会報・封筒代・その他)	200,000
		事務費(事務用品)	100,000
		通信費(郵送料・電報電話代・その他)	400,000
		交通費	200,000
		役員手当	400,000
		雑費(慶弔費込)(消耗品代)	50,000
		次期繰越金	1018316
合計	4,518,316	合計	4,518,316

ICT部短信

ホームページに掲載中です!

◆今月のエッセイ欄 二〇〇八年度

- 一月 「卓袱台」 梶山千鶴子
- 二月 「梟」について 林 日圓
- 三月 「暗峠定点観測」 湖内 成一
- 四月 「那一点」 山陰 石楠
- 五月 「高知がえり」 徳弘 喜子
- 六月 「奈良 春の一日」 柏原 才子
- 七月 「えにし…この不思議」 辻本 孝子
- 八月 「ご存知でしょうか関西俳誌連盟
結成五十周年のことを」

- ## ◆会員の著作 (二〇〇八年度分)
- 豊長みのる 「天啓」 二 一月
 - 橋場千舟 「視線」 一 二月
 - 山陰石楠 「山陰石楠全句集」 三 三月
 - 山中西放 「風の留守」 四 四月
 - 高森悦子 「出会い」 四 四月
 - 中田禎子 「白猪」 七 七月
 - 和田謹次 「背鱈」 七 七月

・十二月開催の句集祭に向け、会員の句集発行情報およびご出品をお願いいたします。

◆その他のホームページ掲載情報

- 結社紹介に「慳(森田智子代表) 三月
 - 結社記念誌欄
 - 「藍三十五周年記念合同句集」 四月
 - 「京鹿子一〇〇〇号記念誌」 五月
 - 会員のホームページのリンク
 - 「新歳時記通信(前田霧人さん) 四月
- ※ホームページ連絡先
ホームページを活用して下さい。
〒603-8805

京都市北区西賀茂蟹ヶ坂町122-3
関西現代俳句協会 ICT部 花谷 清

お知らせ

1. 新しい人事
総会で次の人事が決まりました。(敬称略)

- 副会長 室生幸太郎(暁)、小泉八重子(季流)。なお、前任の谷下一女は定年のため、藤井富美子は病氣療養中のため交代。
- 新理事 小池真理子(暁)、高橋将夫(槐)、辻本冷湖(杭)、西村操(渦)
- 監査役 川村祥子(あざみ)。前任小泉八重子は副会長に、若森京子(海程)は留任。なお、事

顧問 務局各部に副部長職をおくことが出来る様になり、ICT副部長に花谷清(藍)が就任。谷下一女(半夜)、前理事政野すず子(暁)は顧問に就任。

- 2. 来年のスケジュールのお知らせ
- ① 来年度(〇九年度)の総会および「大阪吟行大会」
四月二十五日(土) ラマダホテル大阪(会場)
- ② 同 「忘年・句集祭」
十一月二十九日(日) ラマダホテル大阪(会場)
以上を予定しています。

3. 規約の一部改正
青年部の活動の活発化に伴い、これを会長の指導の下で運営するため、規約の第四条役員ノ項の九に正式に組み入れることになった。これにより予算の執行が規約に基づくものとして認められることになった。

関西現代俳句協会
会報・第三十七号
発行・平成二十年十月二十日
発行人・豊田 都峰
編集人・尾崎 青磁
事務局
〒六一一〇〇一四
宇治市明星町二六一一 尾崎方
TEL/FAX 〇七七四一三一四五九